

11/30 (木) の行事

報道発表資料の配付日時 11月27日 (月) 11時00分

発表項目 (行事名)	第57回 中学生の「税についての作文」に係る北海道知事賞の表彰について								
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者							
		発表場所							
概要	<p>中学生の「税についての作文」は、国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が租税教育の一環として、全国の中学生を対象に昭和42年から実施しているもので、道では平成15年度からこの事業を後援しています。</p> <p>57回目を迎えた令和5年度は、道内の中学生から3,721編の応募があり、北海道知事賞に稚内中学校の安斉暖留さんが入選しました。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 入選者 北海道知事賞 稚内中学校 1年 <small>あんざい はると</small> 安斉 暖留</p> <p>2 表彰式日時等</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">日 時</th> <th style="width: 33%;">場 所</th> <th style="width: 33%;">表 彰 者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年11月30日 (木) 16時00分～16時10分</td> <td>稚内税務署 税務署長室</td> <td>宗谷総合振興局 局長 清水目 剛</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 入選作文 別紙のとおり</p> <p>4 その他 表彰式は稚内税務連絡協議会長賞の表彰と併せて行われ、表彰式終了後は各入選者による1日税務署長体験が予定されています。</p>			日 時	場 所	表 彰 者	令和5年11月30日 (木) 16時00分～16時10分	稚内税務署 税務署長室	宗谷総合振興局 局長 清水目 剛
日 時	場 所	表 彰 者							
令和5年11月30日 (木) 16時00分～16時10分	稚内税務署 税務署長室	宗谷総合振興局 局長 清水目 剛							
参 考									
報道 (取材) に当たって の 願 望									
他のクラブ との 関 係	同時配付 (場所)								
	同時レク								
担 当 (連絡先)	宗谷総合振興局税務課 税務課長 池田 直樹 電話 (直通) 0162-33-2912 (内線2300) 納税係長 沼田 諭一 電話 (直通) 0162-33-2520 (内線2324)								

私と税金と公務員と

稚内市立稚内中学校 1年 安斉 暖留

新型コロナウイルスが流行した頃、患者を診察・治療をしてくれた医療従事者は、誰のお金から給料をもらっているのか、気になったことがあった。そこで、タブレットで調べてみたところ、医療従事者に限らず、警察官・裁判官・自衛隊・消防士・教員等の公務員と呼ばれる人達は、私達が払っている税金から給料が出ていることを知った。そこから、「公務員と税金」というものに関心をもつようになった。

例えば、自宅が火事になった時、消防士が消火活動の費用を請求したらどうだろう。そんな絶望しているときに、お金を請求されたらどんな感情を抱くのだろうか。なんて、考えたことがあった。だが、こんな事、考える必要は全くない。何故なら、消防士が無償で助けてくれるのは、この世の当たり前だからだ。警察官だって、当たり前かのように無償で助けてくれている。この事実だけで考えると、公務員の人達には感謝してもらえないだろう。

だが、そんな無償で働いてくれている人達に私達は、一方的に助けられているのだろうか。

そうではないと私は思う。私達が、公務員を税金で支え、税金で支えられた公務員は、私達の生活を支える。これは公務員との関係に限ったものではない。公共施設も税金で作られているものだし、あらゆる教材も税金で賄われている。また、道路や、図書館もその一つで、私や、誰かが払った税金、その集まりが自分のため、みんなのためにと、形になっている。こうやって、人と人は支え合って生きている。

つまり、このサイクルはみんなを繋げる「輪」になっている。そしてその「輪」を税金は、回り続ける。

しかし、この支え合いがどこかで、絶えてしまったら、意味がない。だからこそ、税金に助けてもらった人が、「自分も税金を払っているから」等の気持ちで、そのことを当たり前だとは思ってはならないと考える。

税金で助けられたことに感謝し、税金で他の人の助けになっていく。そうして、次の人へ、次の人へ、と紡がなければならぬと、私は感じる。そして、税金をみんなが理解してこそ、支え合いがめぐり続ける社会の「輪」が生まれると考える。また、「輪」は、一度生まれたら永久に続くという訳ではないということも忘れてはならない。

私は信じている。

私が払ったこの税金で誰かを支えていることを。

誰かが払った税金で私が支えられていることを。